

美術科調査資料 作成の観点

| | | |
|----------|--|---|
| 書名 項目 | <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> ○○○○ ○○○○○ </div> | 発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: auto;">発行者名</div> |
| 内 容 | <p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <p>○対象や事象を捉える造形的な視点を理解できるように、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○創造的に表すことができるように、どのような工夫が見られるか。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるように、どのような工夫がされているか。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <p><一人一人のよさや可能性を伸ばすようにするための工夫></p> <p>○形や色彩、材料や光などの造形の要素に着目してそれらの働きを捉えたり、全体に着目して造形的な特徴などからイメージを捉えたりできるような工夫が見られるか。</p> <p>○鑑賞において、自分の価値観をもって批評し合うなど、言語活動が充実されるような工夫が見られるか。</p> <p>○単なる知識や理論の学習に偏らないような工夫が見られるか。</p> | |
| 資 料 | <p>○学習意欲を高めたり、発想を広げたりできるよう、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○制作過程や仕組み、材料や用具の安全な使い方などを理解できるよう、どのような工夫が見られるか。</p> | |
| 表記・表現 | <p>○題材の示し方や説明文には、生徒の興味・関心・意欲を高めたり、学習内容の理解を深めたりするために、どのような工夫が見られるか。</p> | |
| 総 括 | <p>(全体的な特徴、その他)</p> | |

| | | |
|----------|---|----------|
| 書名 項目 | <h1>美術</h1> | 9 開隆堂 |
| 内 容 | <p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各題材の導入や作品解説、作者のコメントから、造形的な視点を理解できるよう、文章の工夫をしている。また、用語解説を別枠で提示するなどの工夫がある。 ○参考写真と制作の手順が記されている題材や、巻末の「学びの資料」へとつなげ、技能を習得できるよう工夫している。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各題材において「発想や構想に関する目標」を示すとともに「学習のポイント」や発想・構想の方法、学習の進め方のヒントなどをマークで示す工夫がされている。また、掲載作品に「作者の言葉」や「アイデアスケッチ」を取り上げるなど、思考力、判断力、表現力等を育成する工夫をしている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習の意欲が高まるように「学びの地図」や「発見と創造」「探求と継承」と題した資料を掲載する工夫が見られる。 ○生活や社会の中で生かす美術の働きを考えることができるように、学んだことを職業に生かしている人物の紹介や「暮らしに生きる美術」を掲載している。 <p>＜一人一人のよさや可能性を伸ばすようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○題材の冒頭で〔共通事項〕を意識できるよう説明文を示し、形や色彩などについて考えられるよう工夫している。 ○「学習のポイント」では、自分の見方や感じ方を大切にしながら、言語活動が充実されるよう、鑑賞の観点や手順を示す工夫がされている。 ○知識や理論の学習に偏らないよう、各領域の扉のページで学習を通して学ぶ内容や学習の魅力などを伝える工夫をしている。 | |
| 資 料 | <ul style="list-style-type: none"> ○原寸や作品の細部を拡大した図版を掲載し、学習意欲を高める工夫をしている。 ○巻末に、素材や用具の種類、技法などを掲載し、活動の流れを説明している。また、注意が必要な場面がある場合、赤枠で囲む工夫がされている。 ○各題材にQRコードを掲載し、鑑賞に役立つ資料、用具の使い方、制作手順やポイントを動画で視聴でき、表現方法や鑑賞活動を支援できるように工夫されている。 | |
| 表記・表現 | <ul style="list-style-type: none"> ○本文などでは、UDフォントが使用されている。 ○題材名と合わせて「学習の目標」は三つの観点でマークを使い、安全に関する注意や他教科との関連などを11項目のマークで分類している。「学習のポイント」では生徒が主体的に話し合うことや深い学びにつながるよう配慮されている。 | |
| 総 括 | <ul style="list-style-type: none"> ○「映像メディアを活用する」では、ICT機器を活用した作品や表現方法が示されている。また、情報モラルを配慮した文章が記載されている。 | |

美術科調査資料 1 - 2

| | | |
|----------|---|---|
| 書名 項目 | <h1 style="margin: 0;">美術</h1> | 38 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">光村</div> |
| 内 容 | <p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各題材の導入に鑑賞を位置付け、鑑賞目標の設定をしている。また、「表現」の説明や作者の言葉などから、造形的な視点を捉えられるよう工夫をしている。 ○各題材中の「表現」の項目で、参考写真と制作の活動が記されている題材や、巻末の「学習を支える資料」につなげ、技能を習得できるよう工夫している。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○発想や構想の手立てとして生徒の写真やアイデアスケッチなどを掲載している。また、「みんなの工夫」と題して2名の生徒の制作過程を詳しく紹介し、作家の言葉やアイデアスケッチ、コラムなどを掲載することにより、思考力、判断力、表現力等を育成する工夫をしている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習の意欲が高まるように「美術って何だろう？」や「うつくしい！」と題した資料を掲載する工夫が見られる。 ○美術の学びを振り返りながら、美術の力や働きを人生や社会で生かすことができるように、「美術の力」を掲載している。 <p><一人一人のよさや可能性を伸ばすようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○題材の冒頭に〔共通事項〕を意識できるような問いかけを示し、形や色彩などについて考えられるよう工夫がされている。 ○自分の見方や感じ方を大切にしながら、言語活動が充実されるよう、他者と意見交換をする生徒の写真に、活動内容を文章で示す工夫がされている。 ○知識や理論の学習に偏らないよう、制作過程を紹介し感じたことや使用する者の気持ちを考えて制作することの大切さを伝える工夫をしている。 | |
| 資 料 | <ul style="list-style-type: none"> ○鑑賞図版では用紙の素材を変えるなど、生徒の学習意欲を高める工夫をしている。 ○巻末に、素材や用具の種類、技法などを掲載し、活動の流れを説明している。また、注意が必要な場面がある場合、色を変える工夫がされている。 ○題材に応じてQRコードを掲載し、掲載作品の360度動画や音声ガイド、関連する技法の動画を視聴でき、表現方法や鑑賞活動を支援できるように工夫されている。 | |
| 表記・表現 | <ul style="list-style-type: none"> ○本文などでは、UDフォントが使用されている。 ○題材名の下に二つの領域別の目標を簡潔に示している。安全に関する注意や資料、他教科とのつながりなどを3項目のマークで分類している。各題材の冒頭に鑑賞作品を掲載し、表現と鑑賞を関連付けて深い学びにつながるよう配慮されている。 | |
| 総 括 | <ul style="list-style-type: none"> ○「写真や映像を撮影する」「映像で広がる世界」では、ICT機器を活用した作品や活用手順が示されている。また、情報モラルを配慮した文章が記載されている。 | |

| | | |
|----------|---|---|
| 書名 項目 | <h1>美術</h1> | 1 1 6 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">日 文</div> |
| 内 容 | <p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各題材の解説文において、造形的に捉えられるような文章の工夫がされている。また、作品説明や「造形的な視点」の補足書きからも、捉えられるよう工夫されている。 ○題材で用いた技法を作者の言葉や参考写真で掲載しているものや、巻末の「学びを支える資料」へとつなげ、技能を習得できるよう工夫している。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「造形的な視点」では、図版を指した具体的な問いかけにより全体の印象や気付いて欲しいことを示し、生徒が主体的に考えるように工夫している。掲載作品の作者の言葉や発想や構想のヒントとなるような活動の様子、アイデアスケッチなどを掲載することにより、思考力、判断力、表現力等を育成する工夫をしている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習の意欲が高まるように「中学校美術の世界へようこそ」や「この教科書で学ぶみなさんへ」と題した資料を掲載する工夫が見られる。 ○美術の学びが生活や社会の場面で生かされることがわかるように、様々な職業の人物の紹介や「社会に生きる美術の力」を掲載している。 <p><一人一人のよさや可能性を伸ばすようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「造形的な視点」で〔共通事項〕を意識できるような問いかけを示し、形や色彩などについて考えられるよう工夫されている。 ○自分の見方や感じ方を大切にしながら、言語活動が充実されるよう、生徒が造形活動中に交流する写真を、発想や構想、鑑賞の場面で示す工夫がされている。 ○知識や理論の学習に偏らないよう、美術を通して自分らしさを見付け、思いを形にする大切さや楽しさを「3年間の成長地図」で紹介する工夫をしている。 | |
| 資 料 | <ul style="list-style-type: none"> ○原寸や部分拡大、見開きの図版を掲載することで学習意欲を高める工夫をしている。 ○巻末に、素材や用具の種類、技法などを掲載し、活動の流れを説明している。また、注意が必要な場面がある場合、色を変える工夫がされている。 ○題材に応じてQRコードを掲載し、掲載作品の360度画像や技法の説明動画、作品解説動画を視聴でき、表現方法や鑑賞活動を支援できるように工夫されている。 | |
| 表記・表現 | <ul style="list-style-type: none"> ○本文などでは、UDフォントが使用されている。 ○題材名の上に活動や目的を示すサブタイトルを示し、三つの観点別の学びの目標を示している。安全に関する注意などを7項目のマークで分類している。「造形的な視点」で共通事項に気付き、深い学びにつながるよう配慮されている。 | |
| 総 括 | <ul style="list-style-type: none"> ○「写真で表現する」「動画をつくる」では、ICT機器の活用方法や活用手順が示されている。また、情報モラルを配慮した文章が記載されている。 | |

美術科 調査資料2

○分量について

| 内容 | 学年 | 開隆堂 | 光村 | 日文 |
|---------------------------|-------|-----|-----|----|
| 1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数 | 1年 | 66 | 80 | 74 |
| | 2・3年上 | 122 | 104 | 64 |
| | 2・3年下 | | | 60 |

○題材数等

| 内容 | | | | 学年 | 開隆堂 | 光村 | 日文 |
|-------------------------------------|---------|--|--------------|-------|-----|----|----|
| 1 | 題材数 | | | 1年 | 17 | 17 | 19 |
| | | | | 2・3年上 | 39 | 22 | 18 |
| | | | | 2・3年下 | | | 17 |
| 2 領域別 | A 表現 | 感じ取ったこと や考えたことを基に、 絵や彫刻などに 表現する活動 | 描く活動の 題材数 | 1年 | 4 | 4 | 5 |
| | | | | 2・3年上 | 6 | 7 | 4 |
| | | | | 2・3年下 | | | 5 |
| | | つくる活動 の題材数 | 1年 | 3 | 3 | 3 | |
| | | | 2・3年上 | 4 | 6 | 3 | |
| | | | 2・3年下 | | | 3 | |
| | B 鑑賞 | 伝える、使う などの目的や 機能を考え、 デザインや工 芸などに表現 する活動 | 描く活動の 題材数 | 1年 | 3 | 3 | 4 |
| | | | | 2・3年上 | 9 | 4 | 3 |
| | | | | 2・3年下 | | | 3 |
| | | つくる活動 の題材数 | 1年 | 3 | 3 | 3 | |
| | | | 2・3年上 | 8 | 4 | 4 | |
| | | | 2・3年下 | | | 4 | |
| 美術作品などのよさや美し さを感じ取り味わう活動の 題材数 | 1年 | 5 | 5 | 5 | | | |
| | 2・3年上 | 18 | 6 | 6 | | | |
| | 2・3年下 | | | 5 | | | |

○作者等別作品数について

| 内容 | 学年 | 開隆堂 | 光村 | 日文 |
|---|-------|-----|----|----|
| 1 生徒の作品数 (作者名等の表示があるもの) | 1年 | 64 | 55 | 93 |
| | 2・3年上 | 84 | 61 | 56 |
| | 2・3年下 | | | 58 |
| 2 日本人の作品数 (作者名等の表示があるもの) | 1年 | 55 | 42 | 41 |
| | 2・3年上 | 132 | 72 | 66 |
| | 2・3年下 | | | 18 |
| 3 外国人の作品数 (作者名等の表示があるもの) | 1年 | 16 | 19 | 13 |
| | 2・3年上 | 96 | 75 | 44 |
| | 2・3年下 | | | 39 |
| 4 伝統的な表現の数 (文化財、民芸品等) | 1年 | 39 | 20 | 16 |
| | 2・3年上 | 121 | 95 | 39 |
| | 2・3年下 | | | 45 |
| 5 埼玉県に関連した作品数 (作品等の紹介に「埼玉県」や地名 が表記されている作品等) | 1年 | 1 | 1 | 1 |
| | 2・3年上 | 1 | 2 | 2 |
| | 2・3年下 | | | 2 |

○その他

| 内容 | 学年 | 開隆堂 | 光村 | 日文 |
|--|-------|-----|----|----|
| 1 スケッチの数 | 1年 | 10 | 23 | 10 |
| | 2・3年上 | 2 | 18 | 7 |
| | 2・3年下 | | | 12 |
| 2 写真・ビデオ・コンピュータ等の 映像メディアの作品の数 (作者名等の表示があるもの) | 1年 | 3 | 22 | 2 |
| | 2・3年上 | 19 | 11 | 8 |
| | 2・3年下 | | | 7 |
| 3 日本及び諸外国の独特な表現形式 を扱った題材数 | 1年 | 3 | 2 | 3 |
| | 2・3年上 | 11 | 6 | 7 |
| | 2・3年下 | | | 4 |
| 4 漫画、イラストレーション、図を 扱った題材数 | 1年 | 5 | 7 | 4 |
| | 2・3年上 | 12 | 10 | 3 |
| | 2・3年下 | | | 3 |
| 5 地域の素材を扱った題材数 | 1年 | 1 | 1 | 1 |
| | 2・3年上 | 4 | 3 | 1 |
| | 2・3年下 | | | 1 |
| 6 美術館等を活用した題材数 | 1年 | 0 | 1 | 1 |
| | 2・3年上 | 2 | 1 | 1 |
| | 2・3年下 | | | 0 |
| 7 共働で行う創造活動の作品数 | 1年 | 6 | 0 | 2 |
| | 2・3年上 | 7 | 1 | 0 |
| | 2・3年下 | | | 8 |